



第46回公害環境デー 開く

「頻発する異常気象と地球温暖化」をテーマに



開会あいさつをする
金谷実行委員長



1月27日、朝から雪がちらつく中「第46回公害環境デー」が大阪市内で開催され、午前の3つの分科会と午後の全体会に約180名の方々が参加されました。

午後の全体会では、金谷邦夫実行委員長の開会あいさつに続いて、森田隆生氏（国土交通労働組合関西気象支部副委員長）から「頻発する異常気象と地球温暖化」のテーマで特別講演が行われました。地球温暖化の実情、異常気象のメカニズム、気象庁予算削減・人員削減、全国の測候所大幅削減、国の「電子データ情報」依存など、多くのスライドと動画を用いやすく話していただきました。

つづいて、3つの訴訟団（原発賠償関西訴訟・建設アスベスト訴訟・ノーモアミナマタ近畿二次訴訟）から、原告の方の涙ながらの訴えと弁護士からこれまでの経過報告が行われました。

休憩をはさんで分野別に「大気汚染問題での西淀川の取り組み」

「淀川左岸線道路建設問題」「カジノ・万博問題」が報告されました。

フロアー討論では、あおぞら財団のタンDEM自転車の推進、初めて参加された方の発言がありました。

「府民へのアピール」文を確認したあと、最後に藤永のぶよ副実行委員長が基調報告の重要ポイントを強調し、第1回公害デーの宣言文を紹介しながら「公害に反対する住民運動を躍進させ公害のない大阪を実現するために奮闘しよう」は今でも大切です、とまとめられました。

午前の第1分科会は、早川光俊氏（CASA）から「温暖化問題とエネルギー基本計画」の講演、豊田陽介氏（気候ネットワーク）から「世界が脱化石燃料に動いている状況と遅れている日本の問題点」が報告されました。

第2分科会は、白倉典武氏（関西弁護士会）から「日本全体の原発賠償訴訟が今どうなっているか、訴訟の内容と到達点」について報告され、原告団の車田さんから「避難で7

年たつ今でも二重生活の実態」が紹介されました。

第3分科会は、山本元氏（気候ネットワーク）から、「世界は脱化石なのに、全国で約50基、出力2,300万KWを超える石炭火力発電所建設を計画中である日本の異常な実態」が報告されました。

なお、加納さんの絵画、福島視察・タンDEM自転車・ツバル訪問の写真展示も行われました。

感想文では、「原告の方の訴えは心にしみた。裁判支援にいく」「初めて参加したが、国に対して怒りを覚える。普通の生活の中で、健康を害されることが近くにあるとは思わなかった」「こういう会で交流して情報を出し合い、話し合うことが大切。今後の自分の行動に生かしていく」など40名から声がよせられました。

なくせ！原発 再稼働はんたい！
3・10おおさか大集会 2018

日時：3月10日（土） 9:30～16:00

会場：エルおおさか本館 **参加費無料**

集会終了後 大阪市役所までパレード

主催 原発ゼロの会・大阪